

松岡研究室 主催イベントリスト

平成30年8月9日 現在

番号	著書、学術論文等の名称	著者	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概要
47.	デザイン塾：多空間デザインモデル の理論と実践	<u>松岡由幸</u>	平成30年7月		平成30年7月20日(金)、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館3階を会場として「デザイン塾：多空間デザインモデルの理論と実践」が開催された。「講演会」が2部構成で行われ、多空間デザインモデルの説明や応用分野や応用事例等講演がなされた。3部ではポスター展示と懇親会を開催し研究成果の展示を通し参加者同士自由に意見交換をかわした。
46.	デザイン塾：モノづくり×モノづかいの デザインサイエンス	<u>松岡由幸</u>	平成30年4月		平成30年4月13日(金)、慶應義塾大学矢上キャンパス創想館7階フォーラムを会場として「デザイン塾：モノづくり×モノづかいのデザインサイエンス」が開催された。「講演会」(第1部)、「交流会」(第2部)、の2部構成で開催され、デザインサイエンスがもたらす未来創造の知恵について活発な議論が行われた。
45.	デザイン塾：プラスチックの逆襲－ プラスチック独自の美とは何か－	<u>松岡由幸</u>	平成29年7月		平成29年7月21日(金)、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎2階大会議室を会場として「デザイン塾：プラスチックの逆襲－プラスチック独自の美とは何か－」が開催された。本塾は、「講演会」(第1部)、「書籍『プラスチックの逆襲』各著者によるライトニングトーク」(第2部)、の2部構成で開催され、プラスチックの意義や可能性について活発な議論が行われた。
44.	デザイン塾：タイムアクシス・デザイン の枠組みづくりに向けて	<u>松岡由幸</u>	平成28年7月		平成28年7月8日(金)、慶應義塾大学矢上キャンパス14棟を会場として「デザイン塾：タイムアクシス・デザインの枠組みづくりに向けて」が開催された。本塾は、「タイムアクシスデザインに関する講演」(第1部)、「タイムアクシスデザインの枠組みに関する座談会」(第2部)、の2部構成で開催され、タイムアクシスデザインの概要や重要性などについての説明、パネルディスカッション、タイムアクシスデザインやデザイン科学に関する研究や作品のポスター発表などが行われた。
43.	デザイン塾：マツダが挑む！タイム アクシスデザインの創験 - 未来モビリティ 創生プロジェクト-	<u>松岡由幸</u>	平成28年1月		
42.	デザイン塾：タイムアクシスデザイン の時代	<u>松岡由幸</u>	平成27年7月		
41.	日本デザイン学会 第62回研究発表 大会 オーガナイズドセッション 「プラスチックの逆襲」	<u>松岡由幸</u>	平成27年6月		日本デザイン学会第62回研究発表大会(平成27年6月12日～14日)において、オーガナイズドセッション「プラスチックの逆襲」(オーガナイザー：松岡由幸)が開催された。

40.	デザイン塾：デザイン科学，Mメソッド，そしてタイムアクシス・デザイン	<u>松岡由幸</u>	平成26年7月		平成26年7月25日(金)、慶應義塾大学矢上キャンパス新34棟デザインセンターを会場として、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会、第2支部の2013年度活動：「デザイン塾：デザイン科学、タイムアクシスデザインの創験」が開催された。デザイン科学とタイムアクシスデザインに関する創験（創造の実験的試行と兆し）をテーマとして、デザイン科学に基づく研究・作品事例や「成長型」による永続的な知の統合を確保することが可能な『デザイン科学事典』を紹介した。
39.	IASDR2013 Special Program: Design Science as A Consilience and New Paradigm; "Timeaxis Design"	<u>Yoshiyuki Matsuoka</u>	平成25年8月		平成25年8月28日(水)、芝浦工業大学豊洲キャンパスを会場として、IASDR2013 Special Program: Design Science as A Consilience and New Paradigm; "Timeaxis Design"が開催された。本プログラムでは、デザイン科学とその知見を結実させた『デザイン科学辞典』，そしてそれを応用するMメソッドやタイムアクシス・デザインの研究事例・学生作品の紹介を行い、約80名の様々な国の研究者や教育者が参加した。
38.	デザイン塾：デザイン科学，Mメソッド，そしてタイムアクシス・デザイン	<u>松岡由幸</u>	平成25年8月		平成25年8月1日(木)、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館を会場として、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会、第2支部の2013年度活動：「デザイン塾：デザイン科学，Mメソッド，そしてタイムアクシス・デザイン」が開催された。本デザイン塾では、デザイン科学とその知見を結実させた『デザイン科学辞典』，そしてそれを応用するMメソッドやタイムアクシス・デザインの研究事例・学生作品の紹介を行った。
37.	日本デザイン学会 第60回研究発表大会 オーガナイズドセッション 「デザイン，デザイン学，そしてデザイン科学」	<u>松岡由幸</u>	平成25年 6月		日本デザイン学会第60回研究発表大会（平成25年6月21日～23日、筑波大学）において、オーガナイズドセッション「デザイン，デザイン学，そしてデザイン科学」（オーガナイザ：松岡由幸）が開催された。はじめに、オーガナイザの松岡がデザインの文脈、デザイン学とデザイン科学の関係性、およびデザイン科学の枠組みに関する講演を行った。つぎに、3名のパネリストの方々から、デザイン理論の枠組みやそれを応用したデザイン方法、さらにはデザイン科学の知見を発信するためのデザイン科学辞典に関する様々な話題提供がなされた。
36.	デザイン塾：知の統合としての“デザイン科学”とその応用	<u>松岡由幸</u>	平成24年8月		平成24年8月1日(水)、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館を会場として、日本デザイン学会 第2支部の2012年度活動：「デザイン塾：知の統合としての“デザイン科学”とその応用」が開催された。本デザイン塾では、安全・安心な社会の実現、環境問題への対応に必要な「デザイン科学」や「タイムアクシス・デザイン」をテーマとして、デザイン科学の応用であるMメソッドに関する講演や研究事例・学生作品の紹介が行われた。

35.	デザイン塾：塑性加工の過去、現状、未来	<u>松岡由幸</u>	平成24年4月		平成24年4月26日(木)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「デザイン塾：「環境・資源エネルギー問題に対する塑性加工の取り組みに関する特別講義」が行われた。本デザイン塾では、環境や資源エネルギー問題に対する塑性加工の取り組みをテーマとして、早稲田大学名誉教授本村貢先生にご講演いただいた。約40名の聴講者に対して、環境問題、リサイクル性、および低コスト性などをキーワードに塑性加工技術に関する歴史や最新の塑性加工技術の概要を紹介していただいた。
34.	デザイン塾：“デザイン科学の新展開”-『デザイン科学辞典』編纂に向けて-	<u>松岡由幸</u>	平成23年10月		平成23年10月15日(土)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「デザイン塾：“デザイン科学の新展開”-『デザイン科学辞典』編纂に向けて-」が開催された。デザイン科学とデザイン学の定義および位置づけやデザイン理論・方法論・方法の関係性、形式知・暗黙知とデザイン科学の関係性など、デザイン科学に関するさまざまなテーマに対する活発な議論も行われた。さらに、デザイン科学辞典の編纂に関する詳細の説明が行われた。
33.	デザイン塾：“日本産業の新生「タイムアクシス・デザインの時代」-世界一やさしい国のモノ・コトづくりを目指して”	<u>松岡由幸</u>	平成23年9月		平成23年9月24日(土)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「デザイン塾：“日本産業の新生「タイムアクシス・デザインの時代」-世界一やさしい国のモノ・コトづくりを目指して”」が開催された。タイムアクシス・デザインの概念、意義、理論・方法論に関する講演とそれらの理論・方法論を応用したデザイン作品の発表が行われた。
32.	イリノイ工科大学 佐藤啓一先生による特別講義	<u>松岡由幸</u>	平成22年7月		平成22年7月9日(金)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、イリノイ工科大学 佐藤啓一先生による特別講義が開催された。流通ばかりでなく、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン等へも大きな刺激を持つサービスデザインについて、システムデザインの視点から御講演頂いた。
31.	デザイン塾：多空間デザインモデルの視点によるデザインの現状Ⅱ	<u>松岡由幸</u>	平成22年6月		平成22年6月、全3回にわたって「デザイン塾：多空間デザインモデルの視点によるデザインの現状Ⅱ」が開催された。様々な領域の設計者やデザイナーを招き、それぞれが従事してきた実務を多空間デザインモデルの視点で講演し活発な議論が行われた。
30.	デザイン塾：イスタンブールの日本庭園建設に関する特別講義	<u>松岡由幸</u>	平成22年4月		平成22年4月16日(金)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「デザイン塾：“イスタンブールの日本庭園建設に関する特別講義」が開催された。イスタンブールの日本庭園建設に携わった藤本宣也氏、森和義氏から日本庭園のデザインについて、トルコと日本の歴史的・文化的関係性を交えて御講演頂いた。
29.	デザイン塾：デザイン科学講座	<u>松岡由幸</u>	平成22年4月		平成22年4月10日(土)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「デザイン塾：“デザイン科学講座」が開催された。デザインに関わる研究・教育者の方々、学生を含む約30名の方にお越しいただき、デザイン理論・方法論やそれに基づく研究・実務の詳細に関する様々な議論が行われた。

28.	デザイン塾：多空間デザインモデルの視点によるデザインの現状 I	松岡由幸	平成21年10月～12月		「デザイン塾：多空間デザインモデルの視点によるデザインの現状 I」が開催された。プロダクトや建築など様々な領域の設計者やデザイナーが従事するデザイン実務を多空間デザインモデルの視点に基づく講演がなされた。
27.	デザイン塾：Sanghyun Jee 先生特別講義	Sanghyun Jee 松岡由幸	平成21年6月		平成21年6月5日(金)、12日(金)、19日(金)、慶應義塾大学矢上キャンパスを会場として、Sanghyun Jee 氏による特別講義が開催された。"What is NPR (Non Photorealistic Rendering)"、Positioning a Brand on "Needscope"、Development of the philosophy for LG refrigerator based on Cultural Archetype をテーマとしてご講演いただいた。
26.	日本デザイン学会 第56回研究発表大会 オーガナイズドセッション「タイムアクシス・デザインの時代」	松岡由幸 氏家良樹	平成21年 6月		日本デザイン学会第56回研究発表大会(平成21年6月26日～28日、名古屋工業大学)において、オーガナイズドセッション「タイムアクシスデザインの時代」(オーガナイザ:松岡由幸)が開催された。はじめに、オーガナイザの松岡がデザイン対象や教育の多様性にもとづく文脈や、創発デザインと最適デザインにもとづく創発に関する講演を行った。つぎに、4名のパネリストの方々から、デザインの教育者の立場からタイムアクシスデザインに関する様々な話題提供がなされた。
25.	デザイン塾：“デザインサイエンス”，その文脈と胎動	松岡由幸 氏家良樹	平成21年5月		平成21年5月22日(金)、慶應義塾大学工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会デザイン理論・方法論研究部会(DTM)の2009年度活動:「デザイン塾：“デザインサイエンス”，その文脈と胎動」が開催された。様々な領域のデザインに共通の基盤となるデザインサイエンスの構築について活発な議論が行われた。
24.	デザイン塾：車座の会、デザインサイエンスのフレームワーク	松岡由幸 氏家良樹	平成20年11月		平成20年11月23日(日)、24日(月)、ホテルグリーンプラザ軽井沢を会場として、デザイン理論・方法論研究部会(DTM)の2008年度第2回活動:『デザイン塾：車座の会、デザインサイエンスのフレームワーク』が開催された。DTMのアドバイザーボードである青木弘行先生、デザイン領域の研究者・教育者の方々、ならびに実務者の方々より、デザインサイエンスやデザイン理論・方法論に関するお話を頂き、学生を含む30名の参加者による活発なディスカッションが行われた。
23.	デザインシンポジウム2008	松岡由幸 氏家良樹 小林昭世 永井由佳里	平成20年11月		平成20年11月21日(金)、22日(土)、慶應義塾大学工学部矢上キャンパスを会場として、デザインに関わる主要6学会の共催(幹事学会:日本デザイン学会)によるデザインシンポジウム2008が開催された。本シンポジウムには、デザインに関わる研究・教育者、実務者、学生を含む200名近くの方が参加し、2日間の日程において、2件の招待講演(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科委員長の稲蔭正彦先生、NAOTO FUKASAWA DESIGN 代表の深澤直人先生)、1件のパネルディスカッション、19のセッションにおける合計104件の一般講演が行われた。本シンポジウムの一般講演では、「デザイン理論」、「デザイン方法論」、「デザイン方法」、「デザイン実務」、「デザイン知識」などのような領域横断的なセッション構成としたこともあり、専門に関わる詳細な議論に加えて、さまざまなアспектからの有意義な議論が展開されていた。

22.	車座の会：デザイン科学の枠組みの構築に向けてーデザイン理論・方法論研究部会（DTM）キックオフ会ー	<u>松岡由幸</u> 氏家良樹	平成20年4月		平成20年4月18日(金)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会デザイン理論・方法論研究部会（DTM）の2008年度活動：「車座の会：デザイン科学の枠組み構築に向けてーデザイン理論・方法論研究部会（DTM）キックオフ会ー」が開催された。DTMのアドバイザーボードである森典彦先生ならびに青木弘行先生にご講演いただくとともに、デザインに関わる研究・教育者の方々や実務者の方々、学生を含む80名の参加者による活発なディスカッションが行われた。
21.	デザイン塾 - 最適デザイン法の理論と実践 II	<u>松岡由幸</u> 清水泰博 氏家良樹 伊豆裕一 岡野宏美	平成19年11月～ 平成19年12月		平成19年11月12日(月)、19日(月)、12月3日(月)、10日(月)、17日(月)の計5回にわたり、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスにおいて、日本デザイン学会第2支部の2007年度第5回活動：「デザイン塾：最適デザインの理論 II」が開催された。本活動においては、エンジニアス・ジャパン アドバンスドテクノロジー推進室 室長、宮田悟志氏を講師としてお招きし、工学に基づくデザイン法としての最適デザインに関する理論をご講演いただいた。各講演のさいごには演習も実施され、約70名の参加者は、最適デザインの理論に関する基礎的知識の理解を深めることができた。
20.	デザイン塾 - Workshop on Design Methodology	<u>松岡由幸</u> 清水泰博 氏家良樹 伊豆裕一 岡野宏美	平成19年 6月		平成19年6月29日(土)、30日(日)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第二支部の2007年度第4回活動：「デザイン塾：デザイン方法論に関するワークショップ」が開催された。本活動においては、松岡が本ワークショップの趣旨を述べ、カーネギーメロン大学の石崎豪准教授に、経験やコンテキストを考慮した文章の特徴解析法を、視覚デザインにおけるデザイン言語の体系化において活用する新しい方法論に関するご講演を行っていただき、約40名の方々と交えた活発なディスカッションが行われた。
19.	日本デザイン学会 第54回研究発表大会 オーガナイズドセッション「21世紀、デザイン教育の再考」	<u>松岡由幸</u> 氏家良樹	平成19年 6月		日本デザイン学会第54回研究発表大会（平成19年6月22日～24日、静岡文化芸術大学）において、JIDA（日本インダストリアルデザイナー協会）ならびに教育部会の協賛のもと、オーガナイズドセッション「21世紀、デザイン教育の再考」（オーガナイザ：松岡由幸）が開催された。はじめに、オーガナイザの松岡がデザイン対象や教育の多様性にもとづく文脈や、創発デザインと最適デザインにもとづく創発に関する講演を行った。つぎに、9名のパネリストの方々から、デザインの実務者、教育者それぞれの立場からの様々な意見が述べられた。さいごに、会場に来られた200名近い大勢の参加者の方々と交えた活発な質疑応答が行われ、大変盛況のうちに本オーガナイズドセッションは締めくくられた。

18.	デザイン塾 - 車座の会：21世紀、デザイン教育の文脈、創駿、展望	松岡由幸 清水泰博 氏家良樹 伊豆裕一 岡野宏美	平成19年 6月		平成19年6月2日(土)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第二支部の2007年度第3回活動：「車座の会：21世紀、デザイン教育の文脈、創駿、展望」が開催された。本活動においては、はじめに、松岡がデザイン対象や教育の多様性にもとづく文脈や、創駿デザインと最適デザインにもとづく創駿に関する講演を行った。つぎに、デザインに関わる実務者、教育者の方々からデザイン教育に対する様々な意見を述べていただいた。この、意見提示の場では、デザインに関わる実務者、教育者、および学生を含む約40名の方々と交えたディスカッションも適宜行われ、終了時刻を大幅に延長するほどの熱い議論が交わされた。
17.	デザイン塾 - デザイン科学の枠組みに関するワークショップ	松岡由幸 清水泰博 氏家良樹	平成19年 5月		平成19年5月12日(土)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第二支部の2007年度第2回活動：「デザイン塾：デザイン科学の枠組みに関するワークショップ」が開催された。本活動においては、講師としてお招きしたイリノイ工科大学の佐藤啓一教授に、デザインフレームワークに関するご講演を行っていただくとともに、約30名の方々と交えた活発なディスカッションが行われた。
16.	デザイン塾 - デザイン科学の構築とデザイン哲学の再生に向けて	松岡由幸 清水泰博 氏家良樹	平成19年 4月		平成19年4月20日(金)、27日(金)、5月11日(金)、18日(金)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスにおいて、日本デザイン学会第二支部の2007年度第1回活動としてデザイン塾が開催された。各回の講演においては、デザインに関わる研究・教育者(慶應大・拓殖大・筑波大・東京大)、企業関係者(銭高組・朋栄・マツダ)、および学生等を含む約50名の方々と交えた活発なディスカッションが行われた。
15.	デザインプロジェクト - 21世紀デザイン教育の再考Ⅲ-コンポジション	松岡由幸 清水泰博 氏家良樹	平成19年 3月		平成19年3月13日(火)、14日(水)、15日(木)、16日(金)の計4回に渡り、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第二支部の2006年度第7回活動：「21世紀デザイン教育の再考Ⅲ-コンポジション」が開催された。本活動においては、松岡が「デザイン教育の過去・現在・未来」という題目で講演を行い、慶應義塾大学の氏家良樹氏に「コンポジションとマクロ形状情報」という題目で講演いただき、武蔵野美術大学の小林昭世氏に「近代デザイン史とデザイン教育」および「かたちの創成とデザイン教育」という題目でご講演いただき、山口大学の木下武志氏に「コンポジションとデザイン教育」という題目でご講演いただいた。同講演会では、約20名の方々と交えた活発なディスカッションが行われた。また、講演会の後には、木下武志氏の指導により、慶應大の学生を対象に、3日間に渡るコンポジションの実習が行われ、基礎的知識の理解を深めることができた。

14.	デザインプロジェクト - 21世紀 デザイン教育の再考Ⅱ-表示法	松岡由幸 清水泰博 氏家良樹	平成19年 3月		平成19年3月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)の計4回に渡り、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第2支部の2006年度第6回活動：「21世紀デザイン教育の再考Ⅱ-表示法」が開催された。本活動においては、松岡が「デジタルデザインと表示法の融合」という題目で講演を行い、慶應義塾大学の氏家良樹氏に「デザイン表示法のデジタル化研究」という題目で講演いただき、東芝デザインセンターの伊豆裕一氏に「プロダクトデザインにおける表示法の役割」という題目でご講演いただいた。同講演会では、約25名の方々と交えた活発なディスカッションが行われた。また、講演会の後には、伊豆裕一氏の指導により、慶應大の学生を対象に、4日間に渡る表示法の実習が行われ、基礎的知識の理解を深めることができた。
13.	日産自動車デザインセンター見学会	松岡由幸 清水泰博 氏家良樹	平成19年 2月		平成19年2月27日(火)、日産自動車株式会社デザイン本部を会場として、日本デザイン学会第2支部の2006年度第5回活動：「日産自動車デザインセンター見学会」が開催された。本見学会においては、はじめに、常務執行役員 チーフクリエイティブオフィサー 中村史郎氏より、日産自動車のデザイン史、デザイン戦略、新デザイン棟の特徴等についての説明が行われた。つぎに、プロジェクト・デザイン・ダイレクター 國本恒博氏、長野宏司氏、豊田泰治氏、3名の引率のもと、デザイン本部内の見学ツアーを行っていただいた。さいごに、総務グループ 主担 我妻亨氏の司会進行のもと活発なディスカッションが行われた。本見学会は、全11大学、56名の教員・学生らの参加による大規模なものとなり、参加者一同、実際のデザインの現場を見聞するという大変貴重な機会を得ることができた。
12.	デザインプロジェクト - 21世紀 デザイン教育の再考Ⅰ-デジタル デザイン技法	松岡由幸 清水泰博 氏家良樹	平成19年 2月		平成19年2月3日(土)、10日(土)、17日(土)の計3回に渡り、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第2支部の2006年度第4回活動：「21世紀デザイン教育の再考Ⅰ-デジタルデザイン技法」が開催された。本活動においては、松岡が「デジタルデザインへの期待」という題目で講演を行い、慶應義塾大学の氏家良樹氏に「デジタルデザイン研究の事例と今後の展開」という題目で講演いただき、日産自動車株式会社デザイン本部の岡野宏美氏に「プロダクトデザイン開発におけるデジタルの活用」という題目でご講演いただき、約30名の方々と交えた活発なディスカッションが行われた。また、講演会の後には、岡野宏美氏の指導により、慶應大の学生や拓殖大の学生を対象に、3日間に渡るデジタルデザイン技法の実習が行われ、基礎的知識の理解を深めることができた。

11.	デザイン塾 - Workshop on Design Framework	<u>松岡由幸</u> 清水泰博 氏家良樹	平成18年12月		平成18年12月21日(木)、22日(金)の2日間にわたり、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第2支部の2006年度第3回活動：「Workshop on Design Framework」が開催された。本活動においては、松岡が「デザインフレームワークとしての階層デザインモデル」という題目で講演を行い、Illinois Institute of TechnologyのKeiichi Sato教授に、デザインフレームワークに関する講演を行っていただくとともに、約25名の方々と交えた活発なディスカッションが行われた。また、ワークショップ後の懇親会においては、慶應大の学生によるポスタープレゼンテーション（階層デザインモデルに基づく研究・作品）も行われ、参加いただいた多くの方々と交流を深めることができた。
10.	デザイン塾 - 最適デザイン法の理論と実践Ⅰ	<u>松岡由幸</u> 清水泰博 氏家良樹	平成18年11月～ 平成19年1月		平成18年11月6日(月)、12月4日(月)、11日(月)、18日(月)、平成19年1月15日(月)の計5回にわたり、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第2支部の2006年度第2回活動：「最適デザイン法の理論と実践Ⅰ」が開催された。本活動においては、エンジニアス・ジャパン アドバンスドテクノロジー推進室室長、宮田悟志氏を講師としてお招きし、工学に基づくデザイン法としての「最適デザイン法」に関する講演を行っていただいた。また、各講演のさいごには演習も実施され、約40名の参加者は、最適デザイン法における基礎的知識の理解を深めることができた。
9.	デザイン塾 2006	<u>松岡由幸</u> 青山英樹 清水泰博 氏家良樹	平成18年7月		デザイン塾主催、日本デザイン学会第2支部共催のデザイン塾2006（2006年7月14日、創想館地下2階マルチメディアルーム）が開催された。本ワークショップにおいては、慶應義塾大学の吉田和夫氏らによる講演、先端デザインスクール：デザインプロジェクトで製作されたポスターおよび公募にて集められた他大学のポスターの展示、先端デザインスクール受講生らによるプレゼンテーション、見学会、懇親会を通じて、デザイン理論&方法論の新展開と題して、デザインの基盤とデザインの生命化の観点から、デザインに関する様々な知識や経験の共有化を図った。また、本ワークショップには、デザインに関わる著名なゲストのほか、慶應義塾内外の170名の方々が参加し、多くの質疑応答や活発な議論が行われた。
8.	2006年度慶應先端デザインスクール	<u>松岡由幸</u> 氏家良樹	平成18年4月～ 平成19年3月		慶應義塾大学21世紀COEプログラム「知能化から生命化へのシステムデザイン」における先端デザインスクールの活動として、2006年度は、「デザインプロジェクト：生命化の概念に基づく18件のデザイン提案」、「デザイン塾2006」、「デザイン塾：最適デザイン法の理論と実践」、「デザイン塾：Workshop on Design Framework」、「デザインプロジェクト：21世紀デザイン教育の再考」を行った。
7.	デザイン塾 - 最適デザイン	<u>松岡由幸</u> 氏家良樹	平成17年12月～ 平成18年1月		平成17年12月5日(月)、12日(月)、19日(月)、平成18年1月16日(月)の計4回にわたり、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、デザイン塾：最適デザインが開催された。本活動においては、エンジニアス・ジャパン チーフエンジニア、宮田悟志氏を講師としてお招きし、工学に基づくデザイン法としての「最適デザイン」に関する講演を行っていただいた。

6.	デザイン塾 - デザイン学フレームワーク	<u>松岡由幸</u> 氏家良樹	平成17年10月 ～ 平成17年11月		平成17年10月21日(金)、11月18日(金)、25日(金)の計3回にわたり、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、デザイン塾：デザイン学フレームワークが開催された。本活動においては、デザインの実務者・研究者、デザイン系大学の学生をはじめ多数の方々にご参加いただき、階層型デザインモデル、設計研究と実務、計算機支援、デザイン研究と実務、プロセス知などの様々な観点から、デザイン学のフレームワークに関する活発な議論を行うことができた。
5.	Workshop on Product & System Design	<u>Yoshiyuki</u> <u>Matsuoka</u> Hideki Aoyama Hiroya Igarashi Shigeru Furuya Yoshiki Ujii	平成17年 7月		プロダクショングループ主催のWorkshop on Product & System Design (2005年7月8日、創想館2階14-204室)が開催された。本ワークショップにおいては、Indian Institute of ScienceのAmaresh Chakrabarti氏やKobe UniversityのMin An氏らによる講演、先端デザインスクール：プロダクト&システムデザインコースで製作されたポスターの展示、先端デザインスクール受講者の学生らによるプレゼンテーション、見学会、懇親会を通じて、生命化の観点から、プロダクトデザインとシステムデザインに関する知識や経験の共有化を図った。また、本ワークショップには、デザインに関わる著名なゲストのほか、慶應義塾内外の50名の方々が参加し、多くの質疑応答や活発な議論が行われた。
4.	2005年度慶應先端デザインスクール	<u>松岡由幸</u> 氏家良樹	平成17年 4月 ～ 平成18年 3月		慶應義塾大学21世紀COEプログラム「知能化から生命化へのシステムデザイン」における先端デザインスクールの活動として、2005年度は、「デザインプロジェクト：生命化の概念に基づく7件のデザイン提案」、「Workshop on Product & System Design」、「デザイン塾：デザイン学フレームワーク」、「デザイン塾：最適デザイン」を行った。
3.	Design Forum 2004 at Keio Univ.	<u>松岡由幸</u> 青山英樹 井上全人 萩原将文 前野隆司 氏家良樹 五十嵐浩也 古屋繁 岡崎章 工藤芳彰 渡邊誠 伊豆裕一 浅沼尚 田尾繁	平成16年11月		平成16年11月5日(金)に慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスにおいて、慶應義塾大学21世紀COEプログラム「知能化から生命化へのシステムデザイン」の共催のもとに、平成16年度日本デザイン学会秋季企画大会：“Design Forum 2004 at Keio Univ.”を開催した。本大会は、秋季企画大会の第1回目であり、21世紀のデザインを取り巻く新たな環境を鑑み、「もうひとつのデザイナー－生命と創造のために－」を大会テーマとして、スタッフ、学生を含めて合計80名近くの参加があった。本大会は、「生命に学ぶデザイナー－形態模倣からシステム模倣へ－」と「生命とのインテグレーション－生命システムと人工システムの融合－」というテーマを軸に、CGアーティスト、プロダクトデザイナー、ロボット工学者、建築学研究者など多彩な顔ぶれの講演者からの講演が行われた。

2.	International Workshop on Digital Design	Ichiro Inasaki Tojiro Aoyama <u>Yoshivuki</u> <u>Matsuoka</u> KimiYuki Mitsui Hideki Aoyama	平成16年 7月		プロダクショングループにて主催した、International Workshop on Digital Design (2004年 7月30日、来往舎シンポジウムスペース)を行い、生命化の手法に焦点を置きつつ、デジタルデザインに関する知識や経験の共有化を図った。会場には、ミラノ工科大学のUmberto Cugini教授やMonica Bordegni教授、またテヘラン大学のSeyad Zafamnd氏といったデジタルデザインに関わる著名なゲストのほか、60名以上が参加し、多くの質疑応答が行われ、活発に議論が行われた。また、ビデオ上映やポスター展示を通して、先端デザインスクール、プロダクト&システムデザインコースの活動成果を紹介し、生命化のためのデジタルデザイン方法論について議論を行った。
1.	2004年度慶應先端デザインスクール	<u>松岡由幸</u>	平成16年 4月 ～ 平成17年 3月		慶應義塾大学21世紀COEプログラム「知能化から生命化へのシステムデザイン」における先端デザインスクールの活動として、2004年度は、「生命化の概念に基づく3件のデザイン提案」、「International Workshop on Digital Design」、「Design Forum 2004 at Keio Univ.」を行った。